

研修医の手記

廣里 優樹



はじめまして、本年度4月より市立釧路総合病院で初期研修医としてお世話になっております、廣里優樹と申します。

私は釧路とは縁もゆかりもない人間ですが、道東地域の基幹病院として完結型医療を維持していくために高度医療と三次救急に力を入れている市立釧路総合病院で学ばせていただきたいと思い、当院で働くことを志望いたしました。念願叶って4月より初期研修医として勤務させていただいております。

研修医としての生活も早いもので3か月が経ちました。入職した当初は慣れないことも多く忙しい毎

日を送っておりました。しかし、指導に熱心な先生方や看護師の方々初め、スタッフの皆様の支えのもと、少しずつではありますが仕事にも慣れてきて充実した毎日を過ごしております。

また、その一方で自身の知識の未熟さを感じることも多々あります。2年間の研修生活を通して、医師としてだけでなくひとりの人間として成長するとともに、少しでも道東の医療に貢献できたらと考えております。またどんな時も前向きに学ぶ姿勢で日々の業務に臨むことを心がけています。今後とも何卒よろしく願いいたします。

エキスパートナース紹介 Part.22



皮膚排泄ケア認定看護師の佐藤公美です。

私は2015年7月に認定看護師の資格を取得しました。資格取得後は、主に外科・心臓血管外科の病棟にてストーマケアを中心に活動を行っていましたが、今年度から、褥瘡対策の専従看護師として院内を横断的に活動させていただいております。

褥瘡とは昔でいう「床ずれ」の事です。「床ずれ」ができると、治癒するまでに時間がかかり、また身体に大きな負担となります。私の役割はこの「床ずれ」が生じないように予防対策を講じることや、褥瘡を保有する患者さんへの看護ケアの提案と実践になります。

具体的には、褥瘡を保有する患者さんや褥瘡発生リスクのある患者さんを訪問し、病棟看護師と共に褥瘡予防や看護ケアを検討したり、看護師の褥瘡ケアに関する知識・技術を向上させるための指導や教育環境の調整、褥瘡予防具やマットレスの評価、褥瘡カンファレンスや褥瘡回診への参加等、活動は多岐に渡っています。

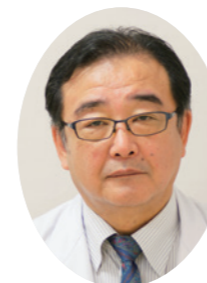
これらの内容を一人でこなすのは難しく、皮膚科医師を始めとする褥瘡対策チームや褥瘡リンクナース、同じ皮膚排泄ケアの資格を持つ看護師の力を借りて活動を行っています。

創傷治癒のメカニズムの解明により、褥瘡ケアも日々進化を遂げており、学ぶべき事が多く研鑽の毎日です。患者さんが少しでも早く、以前の健康な状態に近づけるよう、褥瘡予防やケアを充実させていきたいと考えております。

皮膚排泄ケア認定看護師 佐藤 公美



ごあいさつ



市立釧路総合病院 副院長

長谷川 直人

今年度も昨年度に続き新型コロナウイルス感染症がさらなる広がりをみせる中で迎えることになりました。各医療機関の皆様は、感染症対策・体制も昨年よりある程度経験をもって対応されている中、ワクチン接種などの業務も重なり、変わらず大変な状況になっていることと思われま

す。当院も地域で唯一の感染症指定病院として新型コロナウイルスに対応すべく、病棟の改修工事を行い、さらにはワクチン接種が始まり、日常業務と並行して感染対応に追われている状況です。

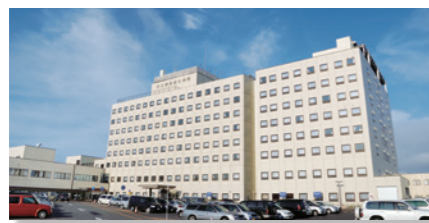
釧路管内の感染状況は札幌など都市部の地域に比較してそれほど厳しくはありませんが、各医療機関、医師会、保健所、行政との良好な連携により感染対応及びワクチン接種は比較的円滑に進んでいるものと思われま

す。これも皆様のご理解、ご協力によるものと心から感謝を申し上げます。このような有事にこそ地域医療の連携が重要となりますので、今後もコロナ感染症対応を含め、管内の医療連携が円滑に行えますように、当院も高度急性期病院、感染症指定病院としての責務を果たすべく職員が一丸となり邁進いたします。皆様とのより良い医療連携のため、今後ともご理解、ご協力の程よろしく願い申し上げます。

理念「信頼と満足の創造」

経営方針

- 十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います。
- 地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します。
- 地域医療を支援するため、病診連携を密にします。
- 心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します。
- 良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます。



市立釧路総合病院

発行責任 広報委員会

〒085-0822 釧路市春湖台1番12号

TEL(0154)41-6121・FAX(0154)41-6511

NEWS

医療連携相談室業務のご紹介

日頃より、地域医療連携相談室業務へのご協力に感謝いたします。釧路市からの委託を受け取り組んでおります在宅医療介護連携事業の一部をご紹介しますと思います。



主な業務は、

1. 在宅医療・介護のための相談窓口の設置
2. 在宅医療・介護業務のための関係機関との連携
3. 「釧路市つながり手帳」の運用
4. 在宅医療・介護連携の普及啓発に関すること



4つの事業内容をもとに活動しています。令和2年度は、コロナ禍のため集合研修は難しく、YouTubeの動画を配信しました。地域介護職・医療職に従事している皆様に視聴していただき好評をいただきました。令和3年度も第2弾を企画していますので是非、視聴の程よろしくお願いいたします。また、在宅ケアでお困りの方向けの「在宅医療・介護」のパンフレットを作成し釧路市内の医療機関から市民に配布しました。市民にとって、在宅医療に関することは難しく、理解していただくためには、わかりやすさと丁寧な説明が必要と思います。

今後も地域の医療と介護のつなぎ役として地域医療・介護情報を発信し地域間の連携強化に努めて参りたいと思います。

在宅医療・介護業務のための関係機関との連携 YouTube動画配信



YouTube 劇団



令和3年1月7日撮影
令和3年3月15日YouTube動画開始
令和3年6月 967回視聴！

在宅医療・介護連携の普及啓発に関すること

在宅医療・介護パンフレット



感染症対策用陰圧式エアータントの導入

当院は管内唯一の感染症指定病院であることから、COVID-19パンデミックにおける大規模感染拡大時における病院機能維持を目的に、感染症対策用陰圧式エアータントを導入しました。

このテントは6m×9mと大型で、前室と陰圧式HEPAフィルタ紫外線殺菌付き空気清浄機の仕様により、CDCのガイドラインに準拠した空調管理を行うことが可能です。また長期運用にも対応できる専用冷暖房システムと照明を整備し、年中場所を選ばずどこでも設営・運用できるよう発電機も完備しました。



導入に際し、医師、看護師、コメディカルから事務職員までの多職種が参加し、緊急時においても迅速に設営できるようシミュレーションを実施しました。更に設営・収納についての簡易マニュアルとビデオを作成し、院内LANを活用し全職員が共有できるように工夫をしました。



また当院は災害拠点病院でもあり、大規模災害発生時においても今回導入したテントを有効活用していきたいと考えています。2021年11月13日、14日に釧路市にて開催予定の緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練での設営も予定しています。

今後は定期的なシミュレーションを実施し、当院職員のみならず釧路市消防隊員やDMAT隊員とも連携を密に取り、安全で効果的な運用を行えるようにしていきたいと考えています。

待ち時間の目安が
分かりやすくなりました。

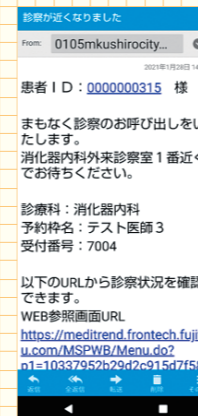
待ち時間を有効に活用していただくために...

患者様に待ち時間を有効に活用していただくための取組みをご紹介します。

今後は他の診療科にも
拡大する予定です。

診察案内メール通知サービス

- ・総合案内の登録端末で、メールアドレスの登録をします。
- ・登録後は、受付をすれば、診察順番が近づくともメールが届きます。また、携帯電話から待ち時間の目安を確認することもできます。



採血・採尿自動システム（消化器内科）

- ・採血・採尿の受付機で、診察券又は予約票のバーコードを読み込むと、採血整理券と採尿カップが出てきます。そのまま採尿室へ行き、採尿カップを提出します。
- ・採血の待合ブースで案内板（モニター）にご自身の番号が表示されるのを待ちます。時間の目安も表示されます。
- ・待合ブースの案内板にご自身の番号が表示されたら、採血室前に移動します。
- ・採血室前の案内板にご自身の番号が表示されたら、採血室の中に入ります。採血台にも番号が表示されます。

